



其蹟諸國物語

全

遠¹⁸
886



門
號 886
卷

諸國物語序

忠と孝の鳥の二翼れどく車乃

忠の鳥の親と孝の鳥の親

忠と孝の鳥の二翼れどく車乃

忠と孝の鳥の二翼れどく車乃

忠と孝の鳥の二翼れどく車乃

忠と孝の鳥の二翼れどく車乃



明治二十一年十一月十九日
氏寄贈



言考、君功を以て、就小孝以けく、
義を守り、信と専ふとて、武藝を磨く、性
古れ、法士に勸き、閑修く、を集く、法、國
物倍と号、五卷、これ、童男の熱く、下り、而、也

目録

月日

作者 其 磧



其 磧 諸 國 物 緒

之 之 卷

目 録

第一 命 之 的 射 掛 射 教 及 忠 信 之 經

根 之 實 梅 之 谷 神 之 香 方 子 之 氣 勢 之 勢 也

惟 經 板 之 切 版 之 君 乃 為 之 作 和 田 之 書 也

名 稱 之 命 乞 之 之 公 而 之 之 小 年 一 年

第二 妾と那奴亦や、讀むは身白の吐息氣

三年の昔のどと、移女にうらみ、思ひ残れを、

日此れあいに、はりくして、若家よの口、

ち、若びが、念云に、たて、位を、常力が、裸馬

第三 眼よやふ一腰乃刀、ゆけ鞘、たまが下心

さ、い、け、さ、死、危、が、紅、竹、さ、い、米、燈、た、ら、が、昔、乃、花

女、を、て、見、え、沖、の、ま、あ、ま、九、ま、い、お、か、い、ま、が、白、雲、

恨、と、怨、り、う、ら、み、ま、ま、姉、姉、妹、の、結、い

其蹟法、因物、終、卷、之、一

○ 命、と、的、の、あ、け、射、殺、さ、い、た、后、の、手、鑑

ま、待、は、い、由、家、の、妾、主、君、の、非、と、改、め、待、ら、ん、よ、う、て、お、治、り、

あ、白、乃、風、枝、と、あ、さ、い、十、日、に、あ、い、お、秘、う、さ、ら、土、の、車、れ、お、猫

小、津、へ、一、文、武、の、乃、を、好、る、色、と、い、曲、の、は、肉、入、り、お、是、

の、良、業、は、お、苦、く、揚、金、酒、の、美、身、に、氣、を、奪、は、て、昔、も、今

も、花、女、の、深、入、し、て、お、を、こ、し、力、を、失、ふ、人、多、き、と、い、ふ、の、

私、人、合、点、を、あ、げ、し、お、を、耐、い、血、字、に、ま、う、也、流、え、お、の、お、さ、ら

も、昔、さ、ら、の、念、を、前、す、て、粹、と、い、て、お、を、あ、り、お、は、い、大、長

お、い、と、さ、ら、と、い、お、あ、る、を、と、し、お、を、あ、ら、い、お、い、は、い、あり

昔、の、花、女、の、お、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い

容、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い、お、を、あ、ら、い

若狭の海峡のうらには男がうらいて下なる女をうらやうとぞあはれし哉
さうりんとぞあはれもあはれしむらばあはれしは世にまじりて後代のよき
しあも。身守はわいのうとてお。彼中世のまじりては世にまじりては
さるる。若狭のうらに。後世のまじりては世にまじりては世にまじりては
がら世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
はらけよ。毒をわけてお米いせらじが。後世の世にまじりては世にまじりては
うら。後世のまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
んらみ。親兄弟のあはれ。世にまじりては世にまじりては世にまじりては
金銀のわら。ゆめをひらけ。世にまじりては世にまじりては世にまじりては
そ方のまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
外のまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
あはれ。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては

人あはれ。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
るに世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
あはれ。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
れが。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
を。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
わら。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
る。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
回。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
若狭のうらに。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
のら。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
うら。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては
して。世にまじりては世にまじりては世にまじりては世にまじりては

其蹟諸國物語



二之卷

目録

第一 花を饒る菊屋のよは家が嗜れ一腰

甲別武田家の家長主れお小を様と右義

意をわねい人を歌といお程も白菊の花

細術の奥伝傳授の礼付て退て憾悔物後

第二 今い子今い勢の刀鞘をて途はれまの侍

刀を抜くおぼゆるぬやい角ぬい丸腰

ふ事れ命途く行が各はる奥の心

妻をまに水ささけい志をまぬ無也れ男

第三 悪名に勢くまをさるる力不斬の心折

兄才と縁を切くし服をまぬ男やい

後切刀短い命延くやば仕者の了當

勇士のま言歌へる向る我身乃死骸

其積諸國物語二之卷

一 花を借る菊倉のみほ家が嗜乃二後

それ武まの武威と輝し人を制し私を結ら團家を治るはるは長

ぬとよそへ酒く勇とる年是も出家の役とて長神と志心

かゆしけり理とらげ命と捨れ死と忍れまらるる我れ一人を討果し

祿のつりに執りてを力を私の名懸小巻ひ君の所用のまらるる今武土

い勢るがぶく。昔日源家平の孫伊孫守れ家の二勇新けらるる

より廿七代武田信虎の嫡子。信守守れ系と痛い方権院義経も古晴

の二字はゆり。時俊と号し。まらるる三十一歳にわたり斬りて。武田信守とて

凡間八代は勇種れ武名を私。あま年の四より斬りて。事案の

あつしゆりやをぬし。おぼゆるをいん。おぼゆるをいん。人傑のあ

まことれ大まらるるのあま一人も地。おぼゆるをいん。おぼゆるをいん。おぼゆるをいん。



さいな
あつらひ
上はまう
きくわら

うんまき
そまうんと
おととふ

おんれあ
おととふ
おどろく

上巻 二



うんま
おんまき
おどろく

おんまき
おんまき
おんまき

おんまき
おんまき
おんまき

上巻 三

第二 人知ぬ志路取して頂とかりし懐の文

みゑを貰ひ抄りいひて風吹けり腰押

はちまぐち敷打て追てこゝに懸へ不乃投害

念押と少人の首おとせり女の金依

第三 善宗不命と紅血汐不流るる子れ仕相

三人二重といひ合え俄に書中の様出立

おむの境に双方の心細細つて分判

眼おに足のか付たる名法人の後推

其正續法園抄卷之三

① 子はお髪の色髪の色髪と何髪の色

男を志と破る。女を志と破る。お人の信れり。後引合川義之

織田信長に付し。お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。

お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。

お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。

お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。

お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。

お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。お氏志と破る。



と云ふは其の意は其のつくおがなりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
すのうへに云ふは其の海をさるる者なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
せんとの意なりと云ふは其の事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
次の方より云ふ事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
浦へ出づる意なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
なる服で不仕や事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
果んはまよはしなりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
と云ふもいふ事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
親ももろと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
名も其の事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
るはて海をばしと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
上る事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一

我もその物を見せしめば其の事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
なり。その武士の智謀奇行といふ事なりと云ひは其の事なりと任後が此一
と云ふもいふ事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
わらうと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
なり。その事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
いそと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
付けの事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
の意なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
毎日おけいなりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
わけてきたりなりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
る件は名付なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一
なり。その事なりと云ふと云ひは其の事なりと任後が此一

